門頭

栂野校長と第三校舎

第五校舎（現在）

奉安殿用材の運搬作業

山形東高同窓会会報

第74号
令和4年4月20日

［発行所］〒990-8525 山形市緑町1-5-87
山形東高同窓会事務局
TEL・FAX（023）631-7501
［ＵＲＬ］https://www.yamatoudousoukai.com
［E-mail］info@yamatoudousoukai.com
［発行人］寺崎　昌尚
［印刷所］坂部印刷㈱ TEL（023）631-2056

明治26年建設　文明開化を告げる門

明治20（1887）年、第6代校長・栂野四男吉（とがのよもきち）は着任するや、師範学校の寄宿舎に手を入れただけの粗末な校舎（七日町にあった第一校舎）を憂え、校舎新築の必要性を強く訴えた。しかし、建設費9,526円をめぐって議会は紛糾。東奔西走し病に倒れた校長は、32歳の若さで永眠した。

明治26（1893）年9月、栂野の悲願かなって勧業試験場を兼ねた公園「千歳園」の一角（現在地）に、ドイツの建築様式を擬した二階建ての壮麗な第二校舎が落成した。正門には墨痕鮮やかに「山形縣尋常中學校」（当時の校名）の門札を掲げ、三角破風が浮き彫りされた端正な門頭が緑に映える。校舎は柵を巡らした堀で囲まれ、馬見ヶ崎川から水を引いたという堀には舟を浮かべることもできた。

正門の史的価値について、建築士・永井毅氏（山東35回）は、「社寺仏閣を除いた県内の近代建築において最古の門柱と考えられ、擬洋風建築の校舎と相まって、当時の民衆に文明開化の息吹を感じさせたのではないか」と語る。

カメラが捉えた正門前の着物姿の人影は、登校する生徒達だろうか。近代教育の黎明を告げる校舎を仰ぎ見る時、きっと少年達も胸の高鳴りを覚えたことだろう。

しかし、そのわずか4年後――。明治30（1897）年6月、校舎焼失。32（1899）年、焼け残った土台に第三校舎が再建された。が、さらなる災禍が襲う。44（1911）年5月8日、「山形市北大火」発生。火元の七日町から南西風に煽られ四散した火炎は一帯を舐め尽くし、山形中学も瞬く間に灰燼と化した。大正元（1912）年、第四校舎落成。以来70年、防火に徹した品格ある校舎は使命を全うし、惜しまれつつ解体された。昭和58年（1983）3月、創立百周年を機に第五校舎（現校舎）落成。正門は前方に移動し間口も拡幅され、山東は少し広き門になった。

校舎を襲った2度の受難にも耐え、今なお凜とたたずまう正門――。その思い出を『九十年のあゆみ・校史編纂資料』（昭和49年発行）でたどってみよう。明治42年入学の和久井好太郎（山中27回）は、「入学の当時は木造建の（第三）校舎で正門は現在の所で、小生等は正門から右手の昇降口に入った」と懐かしみ、大正末期に第四校舎に学んだ詩人の神保光太郎（山中38回）は、「そこを少年達は魔の峡谷（フヨールド）とよんだ／杉の老木が亭々とそそり立ち／昼もほのかな廃道を／名もわかぬ鳥の羽博（はばた）きを聴いた／あした喨々の喇叭（らっぱ）は鳴る／少年達は魔の森の外側に沿ふて現れ／追はれるやうに校門に駆けこむ」と歌った。「そこ」とはかつての堀跡で、「正門を入って、左手は曾てそれこそ鬱蒼と茂った原生林さながらの風景であり、一種もの怖ろしい神秘感を漂わせ『魔の渓谷』と呼ぶにふさわしい地帯であった」という。この頃まで、正門とその周辺は生徒達にとって近しい存在であったことがうかがえる。

昭和に入ると、それが変わる。降矢敬義（山中51回）は「私は昭和8年から12年まで在学したが、登下校はもとより学校への出入は常に裏門からであった。（初めて正門から入った）その日は生徒に講演をするように依頼されていたので、いつかは正門から入ってみたいという三十余年前に抱いた幼い望みを果たしたかったのである」と回顧する。なぜ、正門の通行は禁止されてしまったのか――。

運動部黄金時代の到来に湧く学舎にも、きざし始めた暗い影。生徒達は編上げ靴にゲートルをつけ、挨拶も脱帽から挙手礼に、軍楽隊にならった喇叭鼓隊が創設され、朝礼での宮城遥拝も始まった。時代は、国民を駆り立て精神の統一をはからんと大きくうねり出していた。

昭和15（1940）年、皇紀2600年記念事業として正門西側に奉安殿の建設が始まった。設計は社寺建築の権威・伊東忠太博士、材木は台湾産の檜、あまりの巨木に駅からの運搬には生徒達が駆り出された。その日の様子を、岩岡豊麻（山中55回）は「それは実に楽しかった。何故ならば、この高価な天下の銘大木を山車代りに市内の目抜き通りを引っ張り回したからである。太鼓に合わせ掛声をかけながら前進する。笛の合図でストップする。この勇壮な光景に街という街は見物人で一杯であった」と語る。以後、登下校の際は奉安殿への最敬礼が規則となり、生徒達は正門の通行を許された。その感動を岩岡は忘れることができない。「正門からの登校は実に爽快であり非常な優越感と一種の誇りをさえ感じたものである。あれから三十数年になる。しかし今尚母校を訪ねる際には必ず正門から入って行くのである」

昨年の夏、正門の状況調査が行われた。4基からなる門柱の基壇は馬見ヶ崎石（安山岩）本体は山寺石（凝灰岩）、中央柱の高さ3.7m、脇柱3.3m。風化は全体に及び、特に門頭は酸性雨による欠損、柱脚は凍害による剥離が顕著。付随する柵は周囲の樹木の成長につれ浮上り、早晩に倒壊の恐れあり。――この門をめざし、この門を巣立ち、この門を懐かしむ「健児の幾千」。草創期から「健児」とともに時を刻み続ける正門。山東の象徴を次代につなぐ手立てが、いま急がれる。

（事務局　渡辺　季子）

ご　挨　拶

同窓会会長　**髙橋　一夫**

（山東21回・四六会）

新型コロナ感染が日本で本格化して足掛け３年目となる2022年が、始まっております。

また、私の同窓会会長がスタートしたのが2019年４月からですから、2022年３月で満３年となります。新型コロナから追っかけられてる形になっていますね。

私の経験した同窓会会長の役割は大きく分けて３つほどになります。①同窓会行事での挨拶、議長および事務局との打ち合わせ、②学校行事での挨拶、③地域および職域同窓会に出席しての挨拶と懇親（大体年20回以上）。新型コロナで最も影響を受けたのは、三番目の地域および職域同窓会への出席です。2021年になっての東京と関西はリモートの挨拶でなんとか凌ぎましたが、2020年からの２年間は全く現地に伺っておりません。まあ、これも疫病という歴史的に重大な出来事に突然遭遇したわけで、なんともなりませんでした。

ただ願わくは、疫病に対する感染防御治療対策と疫病下での経済の維持発展対策というトレードオフ関係（こちらを立てればあちらが立たず、ですか。）の均衡点をなんとか見つけてもらいたいものです。そして、その均衡点の状況については、多くの国民から理解を得てもらいたいものですね。

さて、2024年の創立140周年記念事業が着実に近づいて来ております。記念事業行事の内容については、現在のところ、学校側のご要望が取り入れられ、「正門周辺環境整備（仮称）」を役員間で検討しております。

専門家に依頼し、その調査結果をいただきました。それによりますと、経年変化による、「正門門柱」の風化・劣化の状態が想像以上にひどく、垂直が維持されないばかりか、早晩に倒壊する恐れがある、ということでした。何かの折に、生徒、先生、学校関係者が通りかかり、正門門柱の倒壊に遭遇することも十分あるわけで、今の時期に何とかしなければ、という話になっております。

これから、同窓会会員の皆様に、資金的にお願いしなければなりませんが、できるだけ広く浅い形で展開できればいいなあ、と思っております。

今年４年目に入りますが、また１年どうぞよろしくお願いいたします。

「山東探究塾」への ご協力をお願いします

校長　**須貝　英彦**

（山東32回・槌音会）

令和３年度も、次々と襲うコロナの波に耐えながらの学校運営でした。山東生の学びを決して止めないこと、輝かしい青春の思い出となる体験をできるだけ多く積んでもらうことを第一に取り組んでまいりました。日々の学習に追われながらも、山東祭などの学校行事や部活動、そして探究活動にも手を抜くことなく活躍する生徒の姿を頼もしく思っております。一方で、在学中、校歌や「おお勝利」を何度も歌って脳裏に焼き付けるはずなのに、今は感染予防のため全員が揃って歌う場面はほぼなく、将来この世代の同窓会の懇親会はどうやって締めるのだろうかとか、マスク顔しか知らないまま過ごした仲間と再会したときに、果たしてお互いを認識することができるのだろうかなど、要らぬ心配をしてしまいます。

さて、普通科・探究科の体制となり、全校をあげて探究型学習に取り組み始めて４年が経ちました。「山東探究塾」と称する授業の中で、自然科学、人文科学、地域課題、グローバル課題等、生徒が自ら設定したテーマについて調査、研究、実践し、その成果をまとめて発表するという学習活動を通して、将来、社会の発展をリードするための素地を培うことを目指しております。主体的に地域社会に出て様々な人を巻き込みながらプロジェクトに取り組む生徒もおり、大きな手応えを感じております。

この学習を進める上で、生徒の研究テーマが非常に多岐にわたるため、多様な分野の専門家の方々に助言をいただく必要があります。これまでも、地元の大学、自治体、経済界等のご協力をいただいておりますが、まだまだ不足しております。そこで、人材の宝庫である本校同窓生の皆様の力をお借りしたく、「山東探究塾サポーターズクラブ」を設立いたしました。オンラインを用いるなどして、生徒の研究の相談に応じていただくことを想定しております。詳しくはQRコードから専用HPをご覧いただき、是非、登録をお願いいたします。

令和３年度事業報告

コロナ下での事業再開と140周年記念事業の立案を柱に活動を行いました

令和３年

４月８日　令和３年度入学式（学校）
４月14日　事務局会議
　事務局構成・業務分担
５月14日　会計監査
６月11日　第１回役員会
　令和２年度事業報告・決算
　監査報告／令和３年度事業計画とコロナへの対応・予算
　第１回140周年記念事業打合せ会
７月３日　山中山東東京同窓会・創立70周年記念懇親会
７月８日　全国大会出場者激励会
８月25日　第２回役員会
　令和４年度同窓会役員（事務局長）選出
　令和３年度同窓会総会・表彰式
８月27日～29日　山東祭（学校）
８月28日　「30歳になったら東高に帰ろう」
　ホームカミングデー重友会・結昇会
９月３日　第１回評議員会
　第1回・第2回役員会に同じ
　創立140周年記念事業
10月16日　同窓会総会・表彰式
10月29日　創立137周年記念式典（学校）

激励会　吉田文化部OB会長 挨拶

令和３年度　予算執行状況

（令和３年４月１日～令和４年１月31日）

収入の部

（単位：円）

科目	予算額 当初	補正	計	収入済額	摘要
維持会費	6,800,000	592,051	7,392,051	7,332,051	ゆうちょ銀行1,185件(含持込)、コンビニ1,172件
入会金	1,215,000	0	1,215,000	1,215,000	5,000円×243人
積立金より	0	0	0	0	
繰越金	1,750,674	0	1,750,674	1,750,674	
雑収入	400	△ 381	19	19	利子
合計	9,766,074	591,670	10,357,744	10,297,744	

支出の部

（単位：円）

科目	予算額 当初	補正	計	支出済額	摘要
総会費	690,000	△150,802	539,198	539,198	会場費、資料印刷、送付費等
会議費	500,000	△274,665	225,335	225,335	評議員会
表彰費	800,000	△229,630	570,370	570,370	表彰状、喜寿記念品5000円×40人等
会報発行費	3,100,000	△ 5,105	3,094,895	2,117,435	16,800部会報印刷、送付費
通信費	140,000	30,000	170,000	133,833	NTT、切手、葉書、電話工事費
慶弔費	140,000	△ 20,000	120,000	56,339	慶弔電報、香典、餞別
諸手当	30,000	0	30,000	30,000	事務補助費
生徒活動支援費	300,000	△225,000	75,000	75,000	全国大会出場お祝
奨励費	30,000	△ 6,020	23,980	23,980	同窓会賞副賞、賞状筆耕
活動推進費	650,000	△517,714	132,286	132,286	若手学年支援
資料整備費	240,000	76,450	316,450	316,450	展示環境整備、記念写真額装代
事務費	1,490,000	170,000	1,660,000	1,195,847	事務局運営費、一般事務費、ホームページ再構築費
寄付金	1,100,000	0	1,100,000	1,100,000	山東教育後援会へ
積立金	0	900,000	900,000	0	同窓会基金、校史資料整備費へ
振込料金	430,000	△ 5,000	425,000	416,947	ゆうちょ銀行、コンビニ、振替通知書
予備費	126,074	849,156	975,230	0	
合計	9,766,074	591,670	10,357,744	6,933,020	

※収入の維持会費は振込料金を含めた金額である

令和４年度　予　　算（案）

（令和４年４月１日～令和５年３月31日）

収入の部

（単位：円）

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差額(A-B)	摘要
維持会費	6,900,000	6,800,000	100,000	
入会金	1,180,000	1,215,000	△ 35,000	5,000円×236人
積立金より	0	0	0	
繰越金	970,000	1,750,674	△780,674	
雑収入	100	400	△ 300	
合計	9,050,100	9,766,074	△715,974	

支出の部

（単位：円）

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差額(A-B)	摘要
総会費	90,000	690,000	△600,000	資料印刷、案内送付費等
会議費	1,000,000	500,000	500,000	役員会、評議員会、140周年事業会議
表彰費	470,000	800,000	△330,000	表彰状、記念品
会報発行費	3,100,000	3,100,000	0	16,800部会報印刷、送付費
通信費	140,000	140,000	0	NTT、切手、葉書
慶弔費	140,000	140,000	0	慶弔電報、香典、餞別
諸手当	30,000	30,000	0	事務補助費
生徒活動支援費	300,000	300,000	0	全国大会出場激励お祝
奨励費	30,000	30,000	0	同窓会賞副賞、賞状筆耕等
活動推進費	650,000	650,000	0	支部総会お祝、若手学年支援、旅費
資料整備費	30,000	240,000	△210,000	資料保存費等
事務費	1,400,000	1,490,000	△ 90,000	事務局運営費、一般事務費
寄付金	1,100,000	1,100,000	0	山東高教育後援会へ
積立金	0	0	0	
振込料金	430,000	430,000	0	ゆうちょ銀行、コンビニ、振替通知書
予備費	140,100	126,074	14,026	
合計	9,050,100	9,766,074	△715,974	

※収入の維持会費は振込料金を含めた金額である

―郵便局での現金の振込みは　加算料金が必要になりました―

コロナで経済が停滞する中、維持会費にご協力いただきまして心より感謝申し上げます。振込料金の支出が令和元年の値上げにより、40万円以上に急増しております。実収入を確保するためのご協力をお願いします。

- 振込みの際はぜひ、料金（同窓会が負担）が少ない郵便局のＡＴＭかコンビニをご利用下さい。
  郵便局の窓口（203円）・ＡＴＭ（152円）・コンビニ（180円）
- 令和４年１月17日より郵便局での現金の振込みには、110円（払込人が負担）が加算されますのでご留意下さい。
- ご家族など複数で振込まれる場合、「郵便局」専用振込用紙の「通信欄」にそれぞれの氏名・卒業年・金額を列記し、合計金額を一括してお振込み下さい。
- 銀行のネット取引サービス（無料）や、ゆうちょ銀行の電信振替のご利用もどうぞご検討下さい。

11月28日　関西山中山東同窓会オンライン交流会
12月９日　第２回140周年記念事業打合せ会
12月17日　松田杯等四賞授与（学校）

駒草杯受賞者（垂石ひなた）

令和４年

２月４日　山東教育後援会へ寄付金贈呈
第３回役員会
令和３年度補正予算
令和４年度事業計画・予算
令和３年度総会・表彰式の総括／令和４年度まつり
創立140周年記念事業
２月21日　第２回評議員会（書面決議）
第３回役員会と同じ内容
３月２日　同窓会入会式
令和４年卒 山東72回
伍凜会（ごりんかい）
評議員　山田　純平
３月３日　令和３年度卒業式（学校）
同窓会特別賞授与

教育後援会に寄付贈呈

令和3年度 同窓会総会・表彰式

同窓生が一堂に会して親睦を深め、受賞者・喜寿者を祝賀する同窓会総会・表彰式が、10月16日（土）17時よりホテルメトロポリタン山形・霞城の間を会場として、２年ぶりに開催されました。長引くコロナ禍により、今年度は十分なコロナ感染対策を取った上で、参加者を県内の方に限る縮小した形での開催となりましたが、誠に残念ながら、昨年に引き続き今年もまつりは中止となりました。以下にその概況をご報告申し上げます。

当日の出席者は、御来賓・教職員26名、喜寿者（三山会・龍雲会）40名、役員・評議員32名でした。冒頭、ご逝去された会員の皆様に謹んで哀悼の意を表して黙祷をささげ、次いで髙橋会長より、昨年は総会・表彰式が中止となったが、今年は喜寿者を２学年分ご招待して表彰式を開催できて誠にうれしい、というご挨拶をいただきました。須貝英彦校長からは、探究科が設置され卒業生が大学入試で成果をあげたこともあり、BSテレビ東京の番組「THE名門校」で本校が紹介されたことや、コロナ感染対策を十分に取りながら学びを止めることなく前進している学校の近況についてのお話をいただきました。

会則に従って髙橋会長が議長に選出され、協議事項に入りました。「令和３・４年度役員任命（令和４年度から事務局長が渡辺季子様から寺崎昌尚様に交代）」「令和元年度事業報告・決算・監査」「令和２年度事業計画・予算」（令和２年度総会代替報告）について事後承認されました。次いで、「令和２年度事業報告」「令和２年度決算並びに監査報告」「令和３年度事業計画並びに新型コロナウイルスへの対応」「令和３年度予算」について全て承認されました。

総会終了後に表彰式が行われました。永年勤続職員３名に感謝状が贈呈され、森美千子教頭より受賞者代表の挨拶をいただきました。次に、同窓会功労者には武田三十郎様（母校永年勤続功労）と伊藤修二様（副会長功労）が受賞され、受賞のご挨拶をいただきました。喜寿者への記念品贈呈については、昨年開催できなかったこともあり、三山会と龍雲会の方々に贈呈され、それぞれ代表者からご挨拶をいただきました。

表彰式終了後は、喜寿者の方々が、再会できた喜びから会場で名残惜しく写真を撮っておられました。来年こそは、コロナ感染も収束し、同窓会まつりも通常通り開催できるように切に願っています。

（校内幹事長　遠藤　正淑　記）

令和３年度　同窓会功労者表彰

《永年勤続功労》

武田（たけだ）　三十郎（さんじゅうろう）　様
（山東10回・東濤会）

平成２年から 31年間にわたり国語教諭として母校に勤務され、豊かな見識と人間味溢れるお人柄で慕われ、熱意漲る卓越した指導で母校の躍進に大きく貢献されました。また 15年間にわたり山辺支部幹事長として支部発展と母校支援にご尽力されました。

《副会長功労》

伊藤（いとう）　修二（しゅうじ）　様
（山東15回・笑龍会）

昭和55年から 34年間にわたり同窓会副会長等を歴任され、明朗闊達なお人柄と卓越した行動力で同窓会活動を牽引されました。また母校ＰＴＡ、奨学会、松田杯等審議委員会において、文武両道に励む生徒達を支援され教育活動の発展に寄与されました。

令和４年度

同窓会総会・表彰式・まつり

令和４年10月15日（土）
ホテルメトロポリタン山形

◆日　　程：総　会／午後５時～
　　表彰式／午後５時30分～
　　まつり／午後５時50分～
◆出 席 者：来賓、受賞者、喜寿者（笑龍会）
　　役員、評議員　約200名
◆チケット：販売しない
◆当番幹事：継世会（山東33回）・東節会（山東55回）

【開催にあたって】　感染対策を重視して、出席者を会場の収容人数の50％にあたる200人に縮小し、「まつり」は短時間で料理も個々に準備いたします。
安心してお集まりいただけるように、慎重かつ柔軟な対応をしていきますので、どうぞご理解下さい。

新型コロナウイルス感染拡大状況により開催内容に変更が生じた場合には
同窓会ホームページ【https://www.yamatoudousoukai.com】でお知らせします

喜寿の祝い

山東14回・龍雲会「喜寿の会までのあゆみ」

卒業したのは昭和39年（1964）、母校は創立80周年を迎え、街には舟木一夫の「高校３年生」の唄が流れ、東海道新幹線が開通し、東京オリンピックを迎えるばかりの春だった。

「龍雲会」（りょううんかい）の名称は、卒業学年の最初の女性担任だった大宮文子先生を祝し、卒業生の飛龍の勢いを願い、校章制定に関わった学年主任だった細梅久弥先生が命名した。

我ら学年世代は出生人口が少なく、のちに「団塊の世代」と言われるようになった後輩諸君の、溢れんばかりの人数とエネルギーをひしひしと感じて育った。戦後の改革が進み、生活規範や学校制度などが大きく変わり私たちには試験的なものが多くなされた。私たち学生三百数名のうち女子は僅か20名だった。現在は男女ほぼ同数になっており、感慨深い。女子のための施設は少なく、鍵のかかる「更衣室」と称する部屋があった。男子には、あまり役に立たない「下駄箱」があったが、私物をおく場所は無かった。入学した年に、各自に金属製のロッカーが設置された。自己負担ではあるが、鍵がかけられるようになった。そこで学校として、通学に際する外履きはズックを含めた靴類として、下駄・足駄・サンダル等については禁止とした。そのことに対し一部の生徒や、生徒会を含めて反対騒動がおこった。しかし、大事にならず、寒い冬を迎えると「下駄履き禁止反対」の話題は消えていった。

卒業してから15年経過した頃、地元に定着する人が増えて、昭和54年恩師７名、会員70名で第１回の総会を開催した。その年の本部同窓会まつりに当番幹事を務めた。総会は、昭和56年第２回、昭和58年東京会、昭和59年第３回、平成元年は卒後25周年を記念して第４回と重ねてきた。平成13年は、本部同窓会まつりの当番幹事を機会に第６回総会を開催した。平成15年は東京同窓会の当番幹事を務めた。平成17年は還暦を祝い第７回総会、平成26年は古希を祝い第８回総会をした。その会の時、この度の「喜寿の会」を企画し最後の総会の予定とした。今回県内在住の会員のみと縮小されたが、開催されることは貴重な機会なのでできるだけ多くの会員で参加したい。

（齋藤　利明　記）

古希を祝う会

母校　文武両道　近況

おもな大学の合格状況

伍凜会（令和４年３月卒業）

大学入学共通テスト２年目。今年度もコロナ禍の中で実施された。１年目の昨年度はいくつかの科目で得点調整は行われたが、センター試験と比べ各教科・科目の平均点が大きく変わることはなかった。２年目の今年度は特に数学において全国的に低い平均点となり、900点満点で見ても平均点が約520点（業者による自己採点集計）とかなり低い結果となった。難関大合格の目安となる得点率８割を超える成績層も少なく、難関大出願者にとっては例年にも増して個別試験での勝負となった。

本校の概況は次の通りである。昨年に引き続き、東京大学の推薦入試で１人合格した（全国で88人）。京都大学の特色入試でも１人合格しており、確かな学力と、探究活動により主体的に学ぶ力を身につけた成果と考えられる。東京大学は現役合格９人、過年度卒合格３人であった。現役合格のうち６人は理科一類での合格である。東北大については現役38人、過年度卒８人。共通テストでなかなか思い通りに得点できなかった生徒もいたが、第一志望を貫いた強気の出願が功を奏したといえる。近年、関東からの合格者が増えていたが、前期試験の合格者数で見ると山形県内での合格者数は70人（昨年度50人）、青森県内で91人（昨年度74人）となっており、引き続き東北地区の健闘を期待したい。国公立大医学科については、山形大が現役で一般推薦（共通テスト必要）１人、前期（地域枠を含む）２人、後期１人、秋田大学１人の合格。主な大学の合格者（現役）は京都大２・北海道大１・一橋大１・新潟大21・金沢大２などである。

令和３年度（伍凜会）　大学合格者数（延人数） 単位：人 ※現役合格のみ

【国立大学】

大学		人数
北海道		1
北海道教育		1
岩手		2
東北	文	8
	教	1
	法	6
	経	3
	理	4
	医	0
	保	1
	歯	2
	薬	1
	工	10
	農	2
	全	38
宮城教育		2
秋田		2

大学		人数
山形	医	4
	全	22
福島		2
茨城		1
筑波		1
宇都宮		1
埼玉		1
東京	文	3
	理	6
	計	9
東京外国語		1
東京学芸		2
東京農工		1
一橋		1
横浜国立		2
新潟		21
富山		2

大学	人数
金沢	2
信州	3
静岡	1
京都	2
鹿屋体育	1

【公立大学】

大学	人数
宮城	1
国際教養	1
山形県立保健医療	2
高崎経済	4
東京都立	2
長野県立	1
奈良県立	1

【私立大学】

大学	人数
東北学院	7
東北医薬	1
東北芸工	4
青山学院	4
学習院	4
慶應義塾	7
上智	1
中央	15
津田塾	2
東京理科	7
法政	6
明治	6
立教	1
早稲田	11
同志社	1
立命館	9
その他	70

【計】

大学	人数
国立大学	122
公立大学	12
私立大学	156
（国公立医学科）	5
（私立医学科）	1
合計	290

全大学の合格者数は山形東高校のホームページ（http://www.yamagatahigashi-h.ed.jp）の「進路指導」に掲載しておりますのでご覧ください。

体育・文化活動総況

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け各種大会が軒並み中止となった昨年度に対し、令和３年度は、多くの部が目標とするインターハイや全国規模のコンクール、その予選を兼ねた県レベルの大会やコンクールが実施されました。感染症防止対策のガイドラインに基づいた様々な制限がある中での実施とはいえ、日頃の取り組みの成果を発揮し、とりわけ３年生にとって３年間の活動にけじめをつける集大成の機会を得たことは、大変ありがたいことでした。その中でも今年度の特筆すべき成績として３つの部の活躍があげられます。フェンシング部はインターハイと全国選抜大会、放送部はＮＨＫ杯全国高校放送コンテストと全国高校総合文化祭、囲碁将棋部は全国高校総合文化祭と全国高等学校文化連盟将棋新人大会と、それぞれの部が複数の全国大会で堂々と活動の成果を発揮してくれました。特にフェンシング部は、年度末の全国選抜大会において男子サーブル第３位という快挙を達成しています。

年が明けて以降、県内で再び新型コロナウイルス感染が拡大したことをうけ、２月以降は県の指導のもと本校においても部活動の停止措置や、活動日数と活動時間の制限などが続き、十分な部活動強化策が取りにくい状況にあります。令和４年度も、この感染拡大が終息せず、コロナ以前の通常の活動が可能になることは期待できない前提のもと、遠征や対外試合以外での強化策を含め、すべての部が活動内容に工夫を求められると予想されます。平成31年に策定された体育部活動方針、及び令和２年に策定された文化部活動方針に則り、決められた日数と時間の中で効率的に活動し、これまで成果を出してきた山形東高校の伝統を継承できるよう精進していきたいと思います。今後とも同窓会の皆様の物心両面のご支援をよろしくお願いいたします。

令和３年度　松田杯等四賞

《松田杯》フェンシング部

県高校総体　男子学校対抗　第２位
　　女子学校対抗　第２位
県高校新人大会　男子学校対抗　優勝
　　女子学校対抗　優勝

《鈴木杯》伊東　凜（フェンシング部）

県高校総体　女子個人対抗サーブル　優勝
　　フルーレ　第２位
全国高校総体　女子個人対抗サーブル　ベスト32
　　フルーレ　出場

松田杯（フェンシング部）

矢野牌（囲碁将棋部）

《矢野牌》囲碁・将棋部

全国高校総合文化祭和歌山大会　将棋部門　ベスト15

《駒草杯》垂石ひなた（放送部）

山形県高校放送コンテスト 兼
第68回NHK杯全国高校放送コンテスト予選会
　　アナウンス部門　第１位
第68回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト
　　アナウンス部門　出場
第45回全国高校総合文化祭和歌山大会
　　放送部門アナウンス　出場

同窓会特別賞

《中村賞》	芦野　心大
《木村賞》	伊東　凜
《探究賞》	若林　哲平
《山形東高同窓会賞》	牧野陽太郎
《山形中学校東高東京同窓会賞》	寒河江茜里
《山形東高等学校仙台同窓会賞》	大友　悠貴

体育部

令和３年度の各部の主な成績をご報告申し上げます。今後とも同窓会の皆様のご支援をお願い致します。

【フェンシング】

◎全国高校総体
- 男子個人フルーレ　庄司　圭佑
- 男子個人サーブル　第５位　庄司　圭佑
- 女子個人フルーレ　伊東　凜
- 女子個人サーブル　ベスト32　伊東　凜

◎全国選抜大会北海道東北予選
- 男子団体フルーレ　第３位
- 男子団体エペ　第３位
- 男子団体サーブル　第２位
- 女子団体サーブル　第１位

◎国民体育大会
- 少年男子フルーレ　庄司　圭佑
- 少年女子フルーレ　荒木瑠理華

【剣　道】

◎東北大会（大会中止）
- 女子個人　中田　美伶

◎東北選抜（大会中止）　女子団体

【水　泳】

◎東北大会
- 100M背泳ぎ・200M背泳ぎ　第４位　小野　真愛
- 100M自由形　川部　凌
- 1500M自由形・400M自由形　吉田　達哉
- 200M自由形・400M自由形　國井　優大
- 100M平泳ぎ　髙橋　奏翔
- 100Mバタフライ　髙橋　咲彩

◎東北新人大会
- 200M自由形　第５位　國井　優大
- 400M自由形　第７位　吉田　達哉

【陸上競技】

◎東北高校陸上
- 男子110mH　準決勝進出　中村　亮太
- 女子100mH　第８位　下山　奈央

◎東北新人大会（大会中止）
- 男子110mH　中村　亮太

【山　岳】

◎東北高校総体（大会中止）　団体男子

【テニス】

◎東北高校総体（大会中止）
- 男子シングルス　石山　晶悟

◎東北ジュニアテニス選手権大会　石山　晶悟

【新体操】

◎全国高校総体　新体操女子個人　出場　向江　楓
◎東北総体　新体操団体　第３位　向江　楓
◎国民体育大会（大会中止）　新体操団体　主将　向江　楓

文化部

【文芸部】

◎北海道東北文芸大会
- 詩部門　鈴木　佳汰　※ウェブ開催
- 文芸部誌部門　原田　奈歩
- 文芸部誌部門　瀧田琴莉、齊藤純、本間壮、野内はな　※作品提出

【書道部】

◎東邦書道会全国書道展
- 山形県知事賞　工藤　舞香
- 山形市教育委員会賞　鈴木　千智
- さくらんぼテレビ賞　窪田　真聡
- 東邦書道会賞　赤崎　大和・松本佐和子

【囲碁・将棋部】

◎全国高校総合文化祭　将棋部門
- 男子団体　ベスト15　松本　望・神谷　直晴・奥山　健信
- 女子個人　上野　理生

◎東北高等学校将棋新人大会
- 女子個人　第２位　上野　理生
- 男子個人　第６位　奥山　健信

◎全国高等学校文化連盟将棋新人大会　奥山　健信（決勝トーナメント進出）
　上野　理生

【放　送】

◎ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト　※データ審査
- アナウンス部門　垂石ひなた・鈴木　美空
- 朗読部門　吉田　遥
- ラジオドキュメント部門　山形東高校「希望の星」
- ラジオドラマ部門　山形東高校「カラスメント」
- テレビドキュメント部門　山形東高校「山形にはっかの風をもう一度」
- テレビドラマ部門　山形東高校「posi&nega ～すれ違う気持ち～」（準々決勝進出）

◎全国高校総合文化祭
- アナウンス部門　垂石ひなた
- 朗読部門　吉田　遥

◎東北高校放送コンテスト新人大会
- アナウンス部門　優良賞　村田　明穂
- 朗読部門　佐藤　優奈
- ラジオキャンペーン部門　入選　「限りなく近づく二人」
- テレビキャンペーン部門　入選　「この言葉気をつけて」

【その他】

◎安達峰一郎記念世界平和弁論大会　山辺町長賞　田中　葵
◎大阪国際ヴァイオリンコンクール
- アマチュア部門スーペリアコース　第１位　本間　光

◎全国高校ビブリオバトル 2021　髙橋　壮翔（全国大会出場権獲得）

※紙面の都合上、東北大会以上の成績を掲載しています。
部活動成績の詳細は、山形東高校のホームページ（http://www.yamagatahigashi-h.ed.jp）の「山東通信」に掲載しておりますのでご覧ください。

武田三十郎先生ご勇退

特別インタビュー

母校で教鞭を執られること31年。各大学の精緻な問題分析や山東生への愛情あふれるコメントに満ちた膨大な「三十郎プリント」は国語科の貴重な財産です。温顔がますます柔和になられた夏のある日に同窓会室においでいただき、思い出などをお話しいただきました。

プロフィール

1942年（昭和17）山辺町根際生まれ。山東10回卒・東濤会。1964年（昭和39）東京教育大学（現・筑波大学）文学部卒業後、寒河江工業高校に国語科教諭として着任。以後、山形南高校、山形県教育センターを経て、1990年（平成2）から母校にご勤務。2021年（令和3）3月ご勇退。80歳。

■生い立ちから

相模村（現・山辺町）の農家の総領息子として昭和17年、シンガポールが陥落して「大日本帝国が一番調子がよかった年」に生まれました。当時、出征中だった父から軍事郵便で三ヶ月かかって「正雄（まさお）」という命名が届く前に、親戚の古老たちが相談して、武田家に江戸時代から代々伝わる「三十郎」という名前に決めてくれたのだそうです。当時は、農家の跡取りは「農学校」へ進むものと思われていた時代、相模中学校からは３人が山東に進学して左沢線で通学したのですが、そのせいか、後に教員となってからも、教室で「ポツンとひとりバリ（＝ばかり）いるような」中学校出身の生徒には何かと気を配りました。その反面、「大勢進学してくるような中学校」から来た生徒にはちょっと厳しめ。そういうポリシーで生きてきました。

■山東に入学して受けた驚き

生徒として山東に入学後、クラスで隣の席の生徒が、「昨日の晩ご飯はハヤシだった」と雑談しているのを聞いて、「ハヤシライス」なんてまだ見たことも聞いたこともなかったので、衝撃を受けました。また、反対側の隣の席の生徒は「ワレの消しゴム貸して」と、一人称の「ワレ」を二人称の「君」という意味で使っていたり、食事についても言葉の使い方にしても、さまざまな家庭や地域の差があるんだなあということを感じましたね。

■卒業後30年ぶりに山東に赴任して

昔は、農家や商家の長男はそれぞれ専門の「農学校」や「商業学校」へ、女子は「女学校」へ進むのが当たり前だった時代で、単に「アタマがいいから」山東に来る、というのではなく、さまざまな「ギャップ」を乗り越えて、「困難をはね返す強さ」を持っている生徒が集まってきていました。だから、後に国語科の教員として30年ぶりに母校に赴任した時は、「男子の底上げ指導が主な仕事かな」と思って来てみたら、女子でもコクゴが不得手な生徒の存在を知ってびっくりしました。かつての「男子何するものぞ」というような「気概やバリア」がなくなり、「普通の子が多い学校になったんだなあ」という感慨を覚えましたね。でも、本人の頭が良く、努力さえできれば山東に合格できるということは、裏を返せば何のせいにも転嫁できず全てが自分の責任になってしまうということでもあるので、「今の子供たちは大変だなあ」と思います。そのあたりが、今年の東大入試の第一問（評論）に出ていたよね。

■虫歯にならない生徒たち

５年ほど前、職員室で「歯医者に行くのがヤンダ（＝いやだ）なあ」と言ったところ、ある若い先生に「そんなことをおっしゃるのは中高年の先生方だけですよ。生徒たちには一本も虫歯がありません。」と笑われてしまいました。「虫歯とともに生い立って、入れ歯とともに老いて行く」ものだとばかり思っていたのに……。子供の虫歯がないということは、それだけ（幼い頃からの歯磨きの世話とか、）保護者の手が膨大にかけてあるということで、それを思えば、合格発表を親子で抱き合って喜んでいる姿にはずっと違和感があったのですが、今はそれも当然なのかなあ、と納得するようになりました。かつて一家に子供が10人くらいいた時代とは、「親との距離感」が全然違うのだなあ、とも思いますね。

■これからの山形を担うのは

最近のことですが、体育館へ向かう廊下を歩いていたときに、後ろから２名の男子生徒が走ってきて、「〜〜っス。」言いながら私を追い抜いていったんですよ。「〜〜」のところはよく聞き取れなかったのですが、最後の「っス。」を耳にして、そのうちの一人は外国にルーツを持つ生徒だったので、その子にとっては「ふるさとは山形」なのであり、「〜〜っス。」という山形弁が自然に口に出る。「日本人で、山形生まれの」などという「バリア」が無くなった時代、こういう子たちがこれからの山形を担っていってくれるのだろうなあ、と思いましたね。

■２回の「東京オリンピック」

56年前、1960年（昭和39）に教員になった年に、東京オリンピックが開催されました。そのころまだ、日本は自信がなかった。敗戦後、なんとか復興し、「けなげに」努力を重ねてきたけれど、世界から見れば日本はどうなんだろう？と。そんな時に東京オリンピックは大成功を収め、日本人はみんなホッとしました。あの頃はその先に「（高度経済成長などの）峠があった」。しかし、現在の政治などの中枢にいる人々の考え方は当時から何も変わっていない。オリンピックを開催さえすればよいと思っているが、果たしてこの先にはいったい何があるのか。今の若者はこのオリンピックをどう見ているのか。山東生を含めた今の若者たちが、これからの世界とのギャップをどう埋めていくのか、大いに興味があります。

■今後の展望など

山東をやめてから三ヶ月、「ちあきなおみ」が歌っているタッガイ（＝高額な）レコードを聞いたり、「国語便覧」や「文学全集」に載っている著名な作品（「赤と黒」とか）を岩波文庫で読みかえしています。読書三昧の日々。やっぱり本は買わないと、その作品と縁が無いままになってしまうからね……。

およそ1時間半、興味深いさまざまなエピソードをお聞きしました。紙幅の都合もあり、また先生の魅力をどこまでお届けできたか、甚だこころもとない思いです。
三十郎先生、ありがとうございました。

2021年7月26日　聞き手：井上朋子（天成会）
イラスト：大場万藍（美術部３年）

第72回卒業会名

伍凜会（ごりんかい）

凜然（りんぜん）として皆節（せつがい）概有り

平成の最後、新元号令和の開始とともに学びを始めた私たちは、学友たちと友情をはぐくみ、心身と意志のすべての資質を高め、調和し卓越した人間になるべく切磋琢磨してきた。

母校の第72回卒業生として、日本と世界五大陸で大輪の花を咲かせる私たちと後輩たちが、途切れることなく繁栄することを祈念し、互いを尊重しつつ山東に学んだ初志を固く、凜々（りり）しく持ち続けることを誓う。

（原案　出口　智大）

同窓会の各クラス代表

令和４年度

ホームカミングデー　「30歳になったら東高に帰ろう」

◆令和３年度ホームカミングデーに参加して
山東59回 結昇会　奥山　玲香

六黎会（平成22年卒業・山東60回）のみなさんへ

30歳という峠に立った今 母校に帰って
恩師や仲間と楽しい再会のひと時を過ごしてみませんか
みなさんの参加をお待ちしています

- ◆ 日　　時：令和４年８月27日（土）
  山東祭の一般公開日／午後３時より
- ◆ 会　　場：山東会館食堂
- ◆ 内　　容：若手学年支援費の贈呈・近況報告・懇談
- ◆ 申　　込：８月17日（水）まで同窓会事務局へ

在学当時と変わらない山東会館の食堂にて、重友会・結昇会合同で開催されたホームカミングデー。久しぶりに見る友人や恩師の顔はマスク越しでもなお懐かしく、高校での思い出や近況について語り合ううちに、時間があっという間に過ぎていきました。再会の喜びや先生方の軽妙な語りも相まって、笑顔あふれる温かな会になりました。

私達のホームカミングデーを開催し盛り上げてくださった恩師や事務局の皆様、本当にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染拡大状況により開催内容に変更が生じた場合には
同窓会ホームページ【https://www.yamatoudousoukai.com】でお知らせします

知音ふぁいる　若手会員のプロフィール紹介

細江　大樹（平成12年卒業・雙紀会）

地方から世界中と繋がれる時代へ

皆様、山形市のような地方都市で働く弁護士というと、どんな仕事をイメージされるでしょうか。刑事事件や、離婚・相続等の家族間の紛争で法廷に立つ姿をイメージする方が多いのではないかと思います。私の場合、そのような分野ももちろん扱いますが、現在、専門としているのは、インターネット上での誹謗中傷・風評被害対策です。具体的には、違法な投稿の削除請求、投稿した犯人を特定するための発信者情報開示請求という法的手続を行います。顧客層も様々で、企業のお客様から、悪評を放置すると集客や人材採用に悪影響が出るので対策したいというご依頼もあれば、個人のお客様から、いじめや男女間トラブルが原因で個人情報が曝されているので何とかしたいというご依頼もあります。

私が山東での高校生活、東京での大学生活を過ごしていたころは、学生にもガラケーやノートパソコンが普及し始めた時代でしたが、現在のように、誰もがスマホやタブレットを持ち歩き、いつでも気軽に掲示板サイト、ブログ、SNS 等で世界中に向けて発信できる時代になるとは予想していませんでした。私が弁護士として削除請求、開示請求等の裁判を行う際も、サイトの管理者や通信会社を相手にするため、Google、Twitter 等の海外の企業、NTT ドコモ、Softbank、au 等の東京の企業と争うことになります。IT の普及、コロナ禍でのオンライン化に伴って、地方に住んでいても海外や東京と簡単に繋がれる世の中になり、それが法律の世界、弁護士業界にも現れているのだと感じます。

在校生の皆さんが社会に出るまでに、このような IT 化、オンライン化の流れは益々加速すると思われますが、時代の変化をチャンスとして前向きに捉え、視野を広く持ち、世界を舞台に活躍する人材になって欲しいと思います。

創立137周年記念式典記念講演

コロナ禍の中の若き後輩たちへ
変わるもの・変わらないもの・変えるもの…

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター臨床研究部ウイルスセンター長
西村　秀一 氏

プロフィール
1955年　新庄市生まれ
1974年　山形東高卒業／山東24回・東翼会
1984年　山形大学医学部卒業
山形大学医学部細菌学教室助手、米国疾病管理センター（CDC）、国立感染症研究所ウイルス一部主任研究官を経て2000年より現職

著書：『新型コロナ「正しく恐れる」』訳書：『史上最悪のインフルエンザ』『感染爆発＝見えざる敵ウイルスに挑む』『ワクチンいかに決断するか』『ケイテイのふしぎ美術館シリーズ』等

■ 光陰矢の如し　山形東高校から仙台医療センターまで

東高の何がいいかというと、校章（美術を教わった細梅久彌先生がデザインに関わった）がきれいだということ。50年前の初めて講堂に入った時の雰囲気、空気を今でも覚えています。今になってみるとあっという間です。東高の授業で覚えていることは少ないですが、強烈に印象に残っているのは、1年3組担任荒井吉雄先生の「いいが。Dogは犬ではないんだぞ」。意味深く、何より新庄から出てきた私にとって強烈な村山弁イントネーションでした。あと、英語の後藤和弘先生のワーズワースの詩The Rainbowの一節、「The child is father of the man.子どもは大人の父である」。また、卒業生の講演があって、事務次官になった先輩がおっしゃった「木は木なか、ひとはひとなか」という言葉。当時はわかりませんでしたが、最近わかってきました。何かの機会で得て、最後まで残るものが財産です。

大学受験は一期校の北大、二期校の山大医学部とも撃沈しました。防衛大学校、航空大学校を合格していたので、浪人を選ばず航空大学校に行きました。高校の化学担当の斎藤吉雄先生は、戦時中航空兵だったことを授業中に話してくださいましたが、私もそこで学んだことの多くが、今の研究に役立っています。ただ道は順調ではありませんでした。単独飛行前の実地試験で落第し退学させられました。着陸前にダミーの車輪下ろし操作を飛ばすポカをし、また説明なく決められた手順に従わず着陸を強行したのでした。やむなく浪人生活を始めることになりました。

急遽浪人生活を始めた1年目の受験は散々で、2年目に合格しました。その間、高村光太郎や宮澤賢治の詩集を読みました。一期校は東京水産大、二期校は山大医学部、私立はＩＣＵと東京医大と合格を勝ち取り、山大医学部への入学を決めました。山大医学部はできたばかりで、私は第6期です（現役で入った同級生は第2期でもう5年生になっていました）。医学部6年間勉強は大変でしたが、楽しかったです。6年を終えて医師免許を取得し、級友の大半が臨床に進むなか、私は基礎医学の細菌学講座に入り研究生活を始めました。フィリピンの山奥での調査で得たデータで人生最初の論文を書き、英文雑誌に掲載されました。

その後6年研究を続けて医学博士をとり、10年目に留学しました。世界的に有名な米国CDC（Centers for Disease Control and Prevention）に米国政府の奨学金をもらっての留学で、インフルエンザ部門の研究に取り組みました。家族3人で2年8か月、大変でしたが楽しい生活でした。帰国後は、東京新宿にある国立感染症研究所に勤めました。感染研には3年いましたが、仙台に移ることにしました。長男の虫垂炎の術後の状況が思わしくなく、片道2時間の通勤（朝5時に起きて夜9時に帰る生活）に大きな疑問を持ったからです。この決断には、CDC時代のボスの「一番大事なのは家族familyだ」という言葉が効いています。

現在勤務する独立行政法人国立病院機構仙台医療センターはこれまでの研究機関よりも格段に小さいですが、そこでしかできない仕事をしようと努力しました。仙台のウイルスセンターに、温度と湿度を自由に調節しながら、ウイルスを空中に飛ばして回収できる日本で唯一の実験室を作り、そこで空気中に浮遊するウイルスの制御に関する研究をしています。東京でコロナに罹った妊婦の方を受け入れる病院がなく大きな問題になった頃、当院では実験室を活用して作った装置で、緊急出産を受け入れ、無事出産へと繋げるとともに、職員の感染も防ぐことができました。

■「ものの見方は、その人のよって立つ位置による」

この言葉は私が講演の時に必ず出す言葉です。先日東北大学医学部の2年生にも話しました。目の不自由な人たちが象という動物がどんなものか、それぞれ手で触れているところで判断する図があります。象とはどのようなものか、自分の立つ位置でいろんなことを意識しますし、自分が動けば立ち位置が変わります。その見え方によっては、交絡confounding（一見ある現象と結果が結びついているように見えて、実は関係がなくて偶然に起きただけということ）・偏見biasがかかっていないか注意が必要です。

■ 自分のここでの立場・属性

みなさんに話すにあたり、自分のよって立つ位置を明確にしましょう。生物／科学者／医療者／年長者／山東卒業生として、他にも山形にルーツを持つ者／日本人／人間として。属性のおおもとになる「生物」とは何か。学問的には⑴外界と膜で仕切られ、⑵代謝を行い、⑶自分の複製を作るなどがありますが、ある人は「感覚を持った存在」と言います。工学的機械的存在でみると、「予測不能で、つぎはぎで、論理的な行動ではなく、いい加減な私がここにいる」、と言うことになります。

■ なぜ私はここにいるか？私は、我々は、いったい何者なのか？

私は生き物として、どのように存在しているのか。「人間は一本の葦に過ぎない。…考える葦である。」とパスカルは言います。私に言わせれば人間は考える『ちくわ』です。回虫（腸に巣食う寄生虫の一種）と私たちの基本構造は同じで、哺乳類も一本の管（ちくわ構造）です。生命の進化は「変わるけど変わらないもの、変わらないけど変わるもの」です。ＪＴ生命誌研究館・中村桂子先生は、「皆がDNA38億年の歴史を引き継いでいて、大きな流れの中にある」と言います。多様性と言いますが、それは上から目線で、内側からの目線で見た時、私たちは仲間のうちの一つです。

■ 私自身はこれからどう変わっていくのか？変わらないのか？変異株考

“私”と思っているのは私の脳であり、実際には親からもらった遺伝子を持っていて、体内に常在するバクテリアや外来からの細菌も込みで一つの個体を形成しています。全体の中の一つで、基本は一定でも、日々刻々と変わっている存在です。ウイルス学で変異には、何の選択圧力もない中立的な変異と有利な変異を起こしたものが選択される変異（選択圧力による偏り）があります。その結果、消滅していくものがあり、耐えられる変異をしたものが生き残りどんどん広がっていくことも起きます。まさに新型コロナウイルスα、β、γ…株のように。これは、高校2年生の時に山形に講演に来た哲学者の谷川徹三氏（詩人・谷川俊太郎の父）から美術のスケッチブックに書いてもらった宝物「寒山詩」（井底紅塵生、高山起波浪）のようです。まさにパンデミックを表現している感じで、社会改革とか革命というイメージでもあります。

■ もう一度、変異株考　競争だけではないヒト社会

強い選択圧がなければ、野放しで起こる変異株の間、あるいは元の株との間の勢力拡大競争です。これをウイルスではなく、個人・国・ヒト社会に当てはめて考えてみると、両者の違いは、ヒト社会では互いのつぶし合いだけでなく、協調や助け合い、教育といったことがあり、均一・無機なものではないところにあります。ヒトを含む生物には「個性」があります。よく行く中国雲南省で聞いた話ですが、漢方薬の原料は、その地域（年ごと、気候、土地）で育つことで薬草の個性になるそうです。人間も同じで、育った土地で個性は育ちます。

一方で変異に伴う熾烈な競争があります。負ければ淘汰です。勝ち組・負け組という言い方があります。競争者Competitorsと我々はどのレベルにいるのか？我々は今どこを相手にしているのか？相手の良いところを見ましょう。相手を知ることは自分たちを知ることです。日本は、「やり直せる国」です。敗者復活のある社会、負け組からの抜け出し、このようなことを我々の社会から失くしてはいけません。そのために必要なものは何かを考え、理解してください。私の研究も日々敗者復活です。

■ じぶんの将来について

進路は、目的探しから始まります。東大に行く、東北大に行く、医学部に行く。何のために目指すのか。政治学者・丸山眞男氏の文章に「『である』ことと『する』こと」があります。例えば、医者になる。そうして何をするのか。お金をたくさん稼ぐ、飯を食う、家族を養う、働く楽しみ？金持ちになるでもいい。だがそれ自体が目的になっていないか。金持ちになるのは何のため？ 個人の快楽？社会のため？目的に至る道は一つではない。いろんな道があり、正解はない。パイロットへの道を去る私に、担

当教官がかけてくれた言葉。「世界を歩くのには、他の道もあるぞ」。これで自分は救われました。そうだ、まだ道はある、と。

■ ものの見方、見る眼について～素直に見る眼　疑ってみる眼

ノーブレス・オブリージュ Noblesse oblige，Noble Obligation。エリートが持つべき行動規範・矜持です。どの道に進もうが、弱者への思いやりと正義を忘れないこと。何が正義かを判断するには、ものを見る眼が必要です。コンカレント・エビデンスConcurrent evidence、クリティカル・リーディングCritical reading。すり合わせて物事を決める、批判的視点を持ち、読んだだけで終わりにしない。コロナ治療薬の光明とされる抗体カクテル療法について考えてみましょう。一人当たり何十万円もかかります。自己負担なしで受けられますが、その治療を受ける人が多くなると、国の財政負担が増えます。ツケはどこに行くのかは、誰も口には出しませんが、皆さんの世代に行くのでしょう。「一人の命は地球よりも重い」と言われます。患者側に立てばそうです。一方で、そのお金で他の何人の命が救われるかの議論も必要です。人の命の平等性です。ある治療法をとるべきでないと言うのではなく、別の見方もあるということを知ってほしいのです。

■ 多面的考察の必要性のもうひとつの例　よい医師とは？

患者に寄り添い、できるだけ長い時間をかけた診療をするのがよい医師と答える人が多いでしょう。しかし、病院の管理・経営面から考えたら、地域医療は成り立ちません。ヒューマニズムももちろん大事ですが、それだけで済まないことも実は多いのです。患者への寄り添いと効率よい医療供給のバランスを上手くとる「悪役」の立場もときに必要です。これも、ものごとをいろんな角度から見るひとつの例です。

■ １個の生命体としての自分　生きるとは？

生命の視点を忘れず、地球生命体としての人生を考えてください。山東創立137年の歴史は、人類の長い歴史ではほんの僅かです。私の父も、伯父も、旧制山形中学校で学びました（伯父は戦死しました。戦争は罪作りです）。「根拠なき成功の確信」を持ち、困難でもポジティブな生き方をしてください。

各同窓会だより

（順不同）

◇東京同窓会

東京同窓会では2021年７月３日に総会・懇親会をホテル椿山荘東京で開催致しました。新型コロナ感染予防の新たな環境への同窓会対応と懇親会の継続・伝承を目的とし、幹事五六会・東玲会の２年越しの準備により、感染対策に万全を期し、会員個人の認識と判断により70名の出席者を得ることが出来ました。また来賓として、リモートにより山形から高橋同窓会長・須貝校長先生・幹事の恩師四先生にご参加いただき、会場には山形県東京事務所大泉所長をお迎えし、それぞれお言葉を頂きました。全員着席でホテル側の給仕による黙食の後、マスク着用での懇談タイムでは２年ぶりの再会に話が盛り上がりました。「進化するものが生き残る」の精神から懇親会実施に漕ぎつけられたことは山形東高のほまれの歴史と自負しております。未だに新型コロナ感染への決定的な対策や薬が確立されませんが、次回幹事の槌音会・東凌会が2022年11月６日に椿山荘で懇親会を開催する前提で「災禍を乗り越え新たな世界へ―変わらないのは山東魂！」をテーマに準備委員会を重ねています。詳しくはhttp://uzen33.netまたは「山形東高東京同窓会」で検索してホームページをご覧ください。　（会長　金井　浩一郎　記）

◇オンライン形式による先輩との交流

１年次生全員、２年次生有志に対する「現役東大生OBOGリモート講話」が令和３年度に２回開催されました（①７月27日(火)13:30～15:00、②12月20日(月)13:30～15:00）。夏に東京大学オープンキャンパスが開催された折に、先輩から宿舎に来ていただき話をしてもらっていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で難しくなったため、今年度から新たな試みとしてZoomのミーティングで、各教室を会場に開催しました。第１回は、専門の魅力（大学での学びの魅力）を伝えてもらい、志望選択（文系・理系、学部）に活かすことに、第２回は、高校と大学における学びの特徴の相違について語ってもらうとともに、高校での学びについて経験を踏まえて実践的な話をしていただくということに主眼を置きました。参加した山東生は「初めて東大に行った先輩を見た」という感じで目をきらめかせて、文学部・法学部・経済学部・工学部・工学系大学院の先輩に活発に質問して、より身近なアドバイスを聞くことができました。リモート講話は、実施にかかわる経費と労力ともに抑えることのできる機会であり、社会の変化によってもたらされたメリットの一つとして、今後も継続されていくことと思います。

（１年次担任　今野　誉康　記）

山東生おなじみの遠藤書店 120年の歴史に幕

初めて教科書を買いに行った日から卒業まで、みんながお世話になった遠藤書店。遠藤澄男社長に思い出を寄稿していただきました。山東の躍進のためにとご寄付も頂戴しました。心より感謝申し上げます。

旧制山形中学校、山形東高等学校は各界に幾多の有為な人材を送り出されました。弊社が教科書販売を通じ多少なりともお手伝い出来たことに感謝の気持ちで一杯です。業務終了にあたり永きに渡り皆々様のご贔屓を賜り誠にありがとうございました。

遠藤書店は1901年頃に祖父純平（明治31年11回卒）が創業いたしました。遠藤家でも以来息子、孫、曾孫まで15名お世話になりました。その中で次男の修平は、『からまわり先生』と呼ばれ長く奉職させていただきました。

昭和62年（1987）に現在のAZビルが出来るまでは、開業以来木造の店舗で営業させて頂きましたので、教科書販売は店の脇の通路を通り、和室の畳の上に教科書を並べ販売し、狭い通路を通るときには、屋根から雨だれが落ち生徒さんにご迷惑をおかけしたこともあったと聞いております。

祖父純平は同級生に小磯国昭（第41代総理大臣）がおり長年にわたり親睦を深めた様です。又同窓会副会長を長く務めさせて頂き、その間に中村賞再興に尽力いたしました。中村賞は、以前は奨学金の制度だった様で、恩を受けた方の一人に柘植文雄さん（元鹿児島県知事）がおられます。「僕が今あるのは山形中学で学んだお蔭です。」とおっしゃり来形の度に中村家と当家に参拝下さいました。

開業間もない頃の七日町大通り
奥に文翔館（旧県庁）左端に遠藤書店

山形東高等学校の益々のご発展、卒業生のご活躍を祈念いたします。

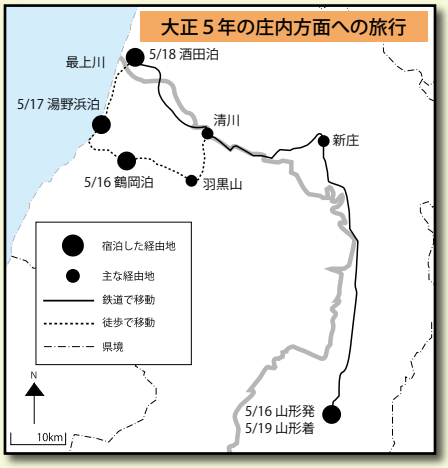
山形中学校の修学旅行（大正・昭和戦前編）

前回第73号では明治期の山形中学校（以下、山中）の修学旅行について記した。今回は大正期、昭和戦前期にスポットを当てていきたい。

昭和7年 修学旅行
軍艦「長門」見学

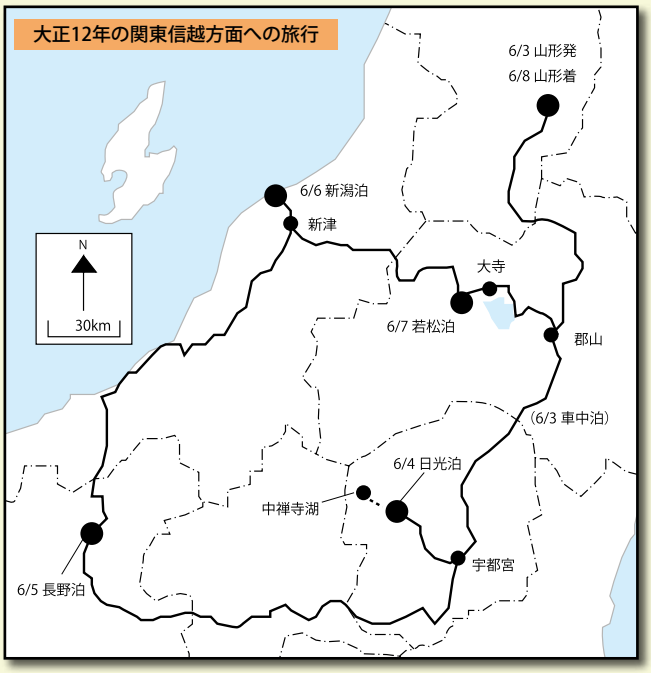
大正期の修学旅行

大正期になると、山中の修学旅行のパターンがほぼ定型化してくる。日数は4～5日間となり、方面も固まってきた。大正期では、庄内方面と関東信越方面の旅行を見てみたい。



大正5（1916）年の庄内方面の旅行は、明治期に比べるとかなり徒歩が減ったことは大きな変化である。近代化の影響を受けているのか、炭山を見学している点も興味深い。

5月16日	6：00　汽車で山形出発。新庄で乗り換えし、清川で下車。徒歩で羽黒山に登る。出羽三山神社参拝。 鶴岡まで歩き、宿泊。
5月17日	宿を出発し、十五里ヶ原を通る。 12：00　大山で油戸炭山を見学。 加茂を経て湯野浜まで歩行。
5月18日	善宝寺に参拝。酒田まで歩行。
5月19日	午前：日和山公園、日枝神社、酒田灯台を見学。 午後：酒田から山形まで汽車で帰る。



6月3日	15：00　鉄道で山形出発。
6月4日	1：58　宇都宮に到着。宇都宮駅周辺を散策。 5：50　鉄道で宇都宮を出発し、日光に向かう。 到着後、日光東照宮を見学。 11：00　馬返しまで電気鉄道で向かう。到着後、徒歩で白雲滝、華厳滝を経由して中禅寺湖まで登る。 中禅寺湖を眺めた後、折り返す。 16：30　馬返しに到着。鉄道に乗車。 18時台 鉄道で日光に到着。日光に宿泊。
6月5日	鉄道で日光から長野に移動する。 長野に到着後、善光寺に参詣する。長野に宿泊。
6月6日	8：24　鉄道で長野から新津に向かう。 新津で下車後、石油会社を見学。 19：00　新潟に到着。新潟に宿泊。
6月7日	6：00　宿を出発。先輩に案内されて、新潟高等学校、海水浴場、医科大学、陳列館、白山公園を見学。 10：55　鉄道で若松に向かう。 到着後、飯盛山に登る。白虎隊の墓、若松城を見学。 若松に宿泊。
6月8日	7：18　鉄道で若松駅から出発。 大寺駅で下車し、猪苗代湖の発電所を見学。 10：36　大寺駅で再び乗車。郡山で乗り換える。 18：00　山形駅に到着。

大正12（1923）年の関東信越方面の旅行のコースは面白い。もちろん東京に向かう年もあるのだが、この頃は鉄道を使って、北関東や信越を巡っていたようだ。日光東照宮をはじめ、長野の善光寺や新潟の石油会社、会津若松の史跡などを見学している。寺社や史跡を訪れるのは明治期でも現代も、修学旅行コースによく登場するが、産業に関する施設や上級学校を多く訪れていることを考えると、明治期にあったような「鍛練」の側面はかなり減り、より「修学」の色合いが強まっていることが読み取れる。山中の修学旅行にも、日本の景気や流れが反映されているのがわかる。

昭和戦前期の修学旅行

昭和期に入って数年は大正期のような修学旅行が続けられていたが、昭和5（1930）年を境に、修学旅行の行き先は関西になり、期間も少し伸びて7～9日間になった。

「聖地参拝修学旅行」と題されている昭和15（1940）年の旅行のコースと見学先は、「皇紀二六〇〇年」を意識していることもあり、伊勢神宮をはじめとした寺社関係がかなり多い。特に戦争が近づいてきた昭和15年の旅行では、伊勢神宮で「心の底から皇国の無窮を祈念」し、皇居で「忠良な臣民にならん事を心から誓った」との記述がある。今の修学旅行のコースとして見ても違和感はないが、実際に旅行している時に当時の生徒が感じていることは、今とはかなり異なったのだろう。

昭和15年　嵐山にて

9月19日	夜 山形から汽車で出発。羽越線経由で京都に向かう。
9月20日	汽車で移動。
9月21日	5：34　京都に到着。東本願寺、賀茂川を見学。 鉄道で桃山に向かい、桃山御陵、乃木神社、三十三間堂、豊国神社、清水寺、護国神社、知恩院、八坂神社に参拝。円山公園を見学。 電車で京都御所に行き、見学。電車で嵐山に向かい、見学したのち、京都市内の宿に向かう。 夕食後 自由散策。
9月22日	8：00　汽車で京都から奈良に向かう。猿沢池、奈良公園、春日神社、東大寺大仏殿・南大門などを見学・参拝。 14：00　ケーブルカーで生駒山に登る。 16：00　奈良市内の宿に到着。
9月23日	7：00　汽車で奈良から橿原に向かう。 8：00　橿原に到着し、橿原神宮、神武天皇陵に参拝。 汽車で宇治山田に向かう。途中、汽車が遅れる。 夜 宇治山田に到着。
9月24日	電車で伊勢神宮に向かい、伊勢神宮内宮を参拝。 電車で二見浦に向かい、海岸を見学。 汽車で名古屋に向かい、護国神社に参拝。 汽車で熱田に向かい、熱田神宮に参拝。 21：20　汽車で東京に向かう。車中泊。
9月25日	朝 東京到着。 8：30　宿に荷物を置き、バスで東京市内に出発する。 上野公園、皇居、楠公を見学。靖国神社、神宮絵画館、明治神宮を見学・参拝。乃木大将邸を見学。 高輪泉岳寺に参拝し、浅草観音を見学。 15：00　宿に戻る。
9月26日	6：22　鉄道で上野から横須賀に向かう。 横須賀で船に乗り、軍港や軍艦を見学する。 鉄道で横須賀から鎌倉に向かう。鎌倉で鶴岡八幡宮に参拝。 鉄道で鎌倉から江の島に向かう。江の島を散策。 鉄道で山形に向かう。
9月27日	山形に到着、解散。

以上、一部ではあるが山中の修学旅行を記した。多々考察不足の点はあるが、修学旅行を通して、私達の大先輩の感じていることを見ることができた。日本と山中・山東のつながり、山東の昔と今のつながりを、今後も見ていきたいと強く思う。

古藤　直輝(勲東会)

東の風

演技者として人として

インターハイ新体操出場　**向江　楓**

私は東高の外部活動として新体操をしていました。主な拠点は自分が小学生の時から通っているクラブチームで、平日は３時間、休日は６～12時間練習しています。オフはほとんどなく月に４回あれば良い方です。そのため私の学生生活はほとんど新体操漬けの毎日でした。

１年生の時から国体選抜チームのメンバーに選んでいただいて、夏休みは一日も休みがなく時に３泊４日の地獄の合宿を乗りこえてひたすら練習をしました。メンバー唯一の１年生でしたが、普通の１年生では味わえないような貴重な経験をさせていただきました。来年は国体もインターハイも出場できるように、そう思った矢先にコロナ禍に入りました。

コロナ禍に入った頃は体育館も閉鎖し、まともに練習することができず近くの公園で踊ることもありました。やっと体育館が開いた時にはほとんどの大会が中止になり、インターハイや団体に出場するチャンスさえ失いました。どこを目指していけばいいかの不安や葛藤を感じたと共に、今までの毎日は当たり前ではないと考えさせられた一年間でもありました。

高校最後の年は、国体選抜チームのキャプテンに任命されました。そして個人でも、インターハイの出場権を獲得することができました。結果は、インターハイで大失敗、国体はコロナの関係で中止という散々なものになってしまいましたが、自分の新体操人生の中でこの高校３年間は特に濃い時間だったと感じます。

３年間を通して、私は本当に多くの方々に支えられてここまでこれたのだと実感しています。コーチや両親、そして東高の先生方にもたくさん相談にのってもらいました。勉強との両立ができたのも先生方のおかげだと思います。そして新体操を通して演技者として以前に人として成長することができました。これらの経験を私の人生の宝としてこれからも成長し続けていきたいです。

第17回全日本新体操ユースチャンピオンシップ

お悔やみ

同窓会報73号掲載以降～令和４年３月31日までに判明した方々です
謹んでご冥福をお祈りいたします

平成21年
12月４日　小笠原正男　様（山中52回）

平成27年
４月29日　中島　亮一　様（山中54回）

平成29年
６月28日　菊地(菊地)幸子様（山東２回西）
８月４日　松田　洋行　様（山東23回）
８月10日　渡部(高橋)善男様（山中61回）
８月19日　坂(遠藤)満男様（山東１回）
10月14日　長岡　潤一　様（山東18回）
11月14日　青柳　元司　様（山中60回）

平成31年
１月24日　小野寺　誠　様（山東29回）
４月８日　今野　忍　様（山中55回）

令和元年
５月６日　堀　崇　様（山東34回）
10月30日　長南(忠)美穂様（山東36回）

令和２年
１月10日　布施木(五十嵐)二郎様（山中52回）
２月18日　石山　慎一　様（山東５回）
３月24日　佐藤　清　様（山東３回）
４月14日　阿部　圓　様（山中56回）
５月５日　太田敬次郎　様（山東１回）
５月５日　小林　進　様（山東12回）
５月10日　佐々木幹人　様（一高２回）
５月21日　針重(塚田)正忠様（山中57回）
５月26日　鈴木　邦彦　様（山東10回）
６月12日　永井(清野)房子様（山東１回西）
６月14日　浅黄(垂石)み江様（山東３回）
６月22日　沼澤　徳子　様（旧職員）
７月12日　長岡　好雄　様（山東２回）
７月13日　長谷川貞夫　様（山東５回）
７月25日　大泉　順一　様（山東24回）
７月28日　高橋元六郎　様（山中57回）
９月２日　小玉信太郎　様（山東25回）
９月11日　小屋　哲男　様（山中57回）
10月13日　高橋　健哉　様（山東24回）
10月20日　山川　和男　様（山東２回）
11月１日　古城(松岡)シゲ子様（山東１回西）
11月２日　武田(山川)孝子様（山東３回西）
11月11日　佐藤　亮一　様（山東６回）
11月12日　植木(藤野)陽子様（山東４回西）
11月18日　佐藤　保雄　様（山東１回）
11月30日　有川(柏倉)美佐子様（山東５回）
12月25日　猪狩(伊勢)明子様（山東３回）

令和３年
１月２日　遠藤(丹野)やえ様（山東１回西）
１月19日　東海林静男　様（山東６回）
１月16日　塩野　幸雄　様（山中57回）
２月２日　鏡(高橋)誠　様（山東６回）
２月３日　赤塚　幹典　様（山東８回）
２月４日　松田　功　様（山東18回）
２月12日　森　和男　様（山東１回）
２月25日　古川　宏　様（山東５回）
３月６日　新関　昭雄　様（山東３回）
３月11日　佐藤　彰　様（山東３回）
３月11日　梅津　浩伸　様（山東12回）
３月29日　會田(石澤)範子様（山東３回西）
３月31日　飛塚　英寿　様（山中58回）
４月９日　佐々木　稔　様（山東８回）
４月12日　設楽　要　様（一高２回）
４月17日　松田　謙三　様（山中61回）
４月17日　鈴木　善晴　様（山東18回）
４月27日　秋葉　英夫　様（山東３回）
５月３日　大内　清治　様（山東９回）
５月９日　小林(神保)誠様（山東10回）
５月15日　會田　敏行　様（山東21回）
５月22日　鈴木　強　様（山東７回）
５月30日　井上　貞二　様（山中49回）
５月31日　髙嶋(橋詰)米子様（山東３回）
６月15日　中村　信之　様（山東４回）
６月25日　會田　輝夫　様（一高１回）
６月30日　山田(三澤)裕子様（山東28回）
７月８日　木下勝久(李海台)様（山東７回）
７月10日　三沢　洋一　様（山東８回）
７月11日　神保龍太郎　様（山東７回）
７月16日　桜井(佐藤)芳子様（山東１回西）
７月19日　色摩(伊藤)典子様（山東12回）
７月23日　軽部　忠　様（山東７回）
７月24日　荒井太四郎(徹)様（山東３回）
７月28日　神尾　孝志　様（山東12回）
７月29日　栗田　完　様（山東34回）
８月３日　佐藤　実　様（山東35回）
８月12日　工藤　達雄　様（山東６回）
８月13日　新井　英次　様（山中57回）
８月17日　鈴木　隆一　様（山中62回）
８月18日　松浦　俊介　様（山東８回）
８月20日　齊藤あさ子　様（山東11回）
８月21日　伊藤　忠一　様（山東１回）
８月29日　坪沼　利雄　様（山中59回）
９月９日　山内　明雄　様（山東７回）
９月16日　川瀬　清　様（山東５回）
９月20日　奥山　逸生　様（山東５回）
９月23日　庄司　武之　様（山東６回）
９月27日　芳賀　博　様（山中58回）
10月２日　渡邉　悦男　様（山東５回）
10月５日　橋本　源志　様（山東12回）
10月５日　冨田　直信　様（山東14回）
10月６日　江口　敏昭　様（山東22回）
10月11日　佐藤　直信　様（山東12回）
10月14日　鈴木　通正　様（山東４回）
10月16日　藤澤　昭友　様（山東８回）
10月18日　西塚(板垣)速雄様（山東２回）
10月20日　岩淵　治彦　様（山東５回）
10月21日　武田　亨一　様（山中61回）
10月21日　鹿野　道彦　様（山東10回）
11月７日　後藤　晋也　様（旧職員）
11月11日　佐藤(阿部)和子様（山東１回西）
11月13日　酒井(桑山)享子様（山東１回西）
11月17日　後藤　卓　様（山東３回）
11月17日　髙嶋　昭　様（山東３回）
11月18日　相馬　文憲　様（山東17回）
11月25日　小山　孝之　様（山東10回）
11月27日　早坂　直　様（山東10回）
12月８日　伍島　洪太　様（山東13回）
12月15日　遠藤　市郎　様（一高１回）
12月17日　大津　高　様（旧職員）
12月17日　伊東　俊吉　様（山東８回）
12月21日　土屋　政光　様（山東３回）
12月26日　宮崎　信三　様（山東８回）
12月27日　栗原　浩右　様（山東５回）
12月27日　高橋　靖夫　様（山東８回）

令和４年
１月１日　結城(長谷川)度様（一高2回・元評議員）
１月１日　佐藤　靖久　様（山東37回）
１月２日　大原　秀数　様（山中56回）
１月２日　石山　正壽　様（山東７回）
１月２日　中村　正俊　様（山東16回）
１月８日　髙橋　和雄　様（山中61回）
１月12日　植松　喜平　様（山東14回・旧職員）
１月13日　広谷　正紀　様（山東９回）
１月17日　山口　浩二　様（山東22回）
１月17日　古沢　一久　様（山東26回）
１月19日　伊藤　慎一　様（山東27回）
１月20日　恩地日出夫　様（一高併中１回）
１月21日　田代　健一　様（山中60回）
１月25日　佐藤(鈴木)京子様（山東２回西）
１月25日　遠藤栄一郎　様（山東12回）
１月26日　武田　春雄　様（山中61回）
１月29日　小笠原正亮　様（山東１回）
１月31日　荒井　邦雄　様（山東３回）
２月１日　宮村(高橋)洋子様（山東2回西）
２月２日　坂本　正男　様（山東19回）
２月６日　伊藤　俊和　様（山東23回）
２月９日　櫻井庄一郎　様（山東６回）
２月11日　菊地(三沢)俊彦様（山東２回）
２月15日　片桐　繁雄　様（山東２回）
３月18日　斎藤　譲一　様（山東４回）
３月19日　中野　英夫　様（山東４回）
３月24日　髙橋　進　様（一高１回）
３月26日　渡辺　峯太　様（山中60回）

山東奨学会

令和３年
５月20日　第20回理事会（書面決議）
　令和２年度事業報告
　決算の承認
　理事・監事候補者の選任
６月17日　第８回評議員会（書面決議）
　令和２年度事業報告
　決算の承認
　理事・監事の選任

令和４年
２月10日　第21回理事会（書面決議）
　令和３年度事業経過報告
　令和３年度補正予算の承認
　令和４年度事業計画
　予算の承認
３月18日　奨学生審査会
３月29日　奨学金贈呈式　３名に贈呈

慶　祝

令和２年
11月３日
瑞宝小綬章　菅原　和敏 様（山東16回）

令和３年
４月29日
瑞宝小綬章　阿部　憲明 様（山東19回）
旭日双光章　佐藤　紀嗣 様（山東14回）
瑞宝双光章　奥山　隆夫 様（山東15回）
　　石山　康博 様（山東18回）
７月10日
瑞宝双光章　三沢　洋一 様（山東８回）
10月15日
瑞宝小綬章　川瀬　清 様（山東５回）
11月３日
瑞宝中綬章　安喰　功 様（山東10回）
　　須貝　俊司 様（山東20回）
瑞宝小綬章　斎藤　亮一 様（山東20回）
旭日双光章　三條　忠夫 様（山東８回）
　　武田清一郎 様（山東８回）
　　高橋ひろみ 様（山東15回）
　　遠藤　隆一 様（山東17回）
瑞宝双光章　多田源四郎 様（山東19回）
瑞宝単光章　石澤　貞範 様（山東24回）
黄綬褒章　武田　元裕 様（山東22回）
藍綬褒章　大泉　耕三 様（山東24回）
齋藤茂吉文化賞　大谷　駿雄 様（山東８回）
山形県産業賞　桂木　宣均 様（山東29回）

12月３日
瑞宝小綬章　後藤　晋也 様（旧職員）
12月９日
三浦記念賞　斎藤　保 様（山東21回）

篤志寄付

令和３年
10月20日　山東奨学会への寄贈　12,000円
　東京同窓会懇親会における有志寄付
　山形中学・山形東高東京同窓会
12月１日　校史資料整備費　３万円
　一行会（山東７回）
12月21日　図書購入費　10万円
　探究活動支援費　10万円
　山形市役所東高会

令和４年
１月18日　教育奨励費　20万円
　（文化部・運動部奨励費10万円
　図書購入費５万円、奨学会
　基金５万円）
　山形県庁東高会
２月４日　教育後援会へ寄付　110万円
　山形東高同窓会

職員動向

本校に係る令和３年度末の人事異動をご報告します

〈転　出　者〉（敬称略）

竹田　良夫（事務部長・２年）病院事業局へ
阿部　好弘（教　頭・１年）山形県立博物館へ
寺崎　昌尚（国　語・9カ月）ご退職
髙橋　章一（理　科・15年）ご退職・本校再任用
澁谷　　徹（英　語・12年）ご退職
遠藤　正淑（地　歴・６年）ご退職・本校再任用
長岡奈保子（養護教諭・３年）ご退職・本校再任用
佐藤　陽一（保　体・12年）天童高校へ
後藤　恵治（数　学・12年）小国高校・教頭へ
石川　創太（国　語・６年）寒河江高校へ
佐藤　勝治（情　報・４年）教育センターへ
加藤　　浩（地　歴・１年）山形西高校へ
桃井　ふみ（総務主査・５年）知事部局へ

〈転　入　者〉（敬称略）

伊藤　正弘（事務部長）東桜学館高校より
黒木　　晃（教　頭）教育センターより
寺澤　裕子（国　語）山形南高校より
木口　隆一（国　語）
河野　　崇（地　歴）寒河江高校より
永瀬　貴紘（数　学）新庄北高校より
水戸部英和（保　体）寒河江高校より
遠藤　淳一（英　語）高畠高校より
半澤　弘光（情　報）新採
西村あつみ（総務主査）山形工業高校より

令和4年度　同窓会役員

役　員

会長	髙橋一夫	山東21回
副会長	矢野秀弥	山東21回
〃	髙橋　修	山東27回
〃	桂木宣均	山東29回
幹事長	髙橋勝幸	山東30回
副幹事長	永井　毅	山東35回
〃	井上聡子	山東36回
幹事	清野寿啓	山東38回
〃	長谷川浩一郎	山東39回
〃	山澤　廣	山東39回
〃	中村祥之	山東41回
〃	佐藤美佳	山東44回
〃	伊藤陽介	山東47回
〃	坂部経洋	山東51回
〃	丹野茉依	山東53回
〃	斉藤　亘	山東54回
監事	伊勢和正	山東25回
〃	吉田昌平	山東52回
事務局長	寺崎昌尚	山東27回

顧　問

浜田　敏	第10代会長	山東17回
遠藤來二	第29代校長	
日野顕正	第33代校長	
山川博史	第35代校長	
佐藤敏彦	第36代校長	
伊藤和夫	第37代校長	
勝見英一朗	第38代校長	
相馬周一郎	第39代校長	
渡部泰山	第40代校長	
柳谷豊彦	第41代校長	
菅間裕晃	第43代校長	
佐藤俊一	第44代校長	

相談役

森谷　寛	体育部OB会長	山東17回
吉田眞一郎	文化部OB会長	山東17回

評議員

山中55回	昭南会	設楽　隆
山中58回(4)	銀河会	西村久男
山中59・60回	太平会	佐藤良助
山中62・一高2回	ふたば会	今野成行
山東１回	東一会	木村雅一
山東２回	東友会	登坂光雄
山東４回	東四会	阿部諒悦
山東５回	古稀会	山口隆司
山東６回	六翠会	小松公博
山東７回	一行会	真田宗厚
山東８回	東八会	深瀬　智
山東９回	東鳩会	伊藤光一郎
山東10回	東濤会	逸見誠司
山東11回	東士会	斎藤　啓
山東12回	東睦会	井上伸一
山東13回	三山会	秋葉正彦
山東14回	龍雲会	大場敏男
山東15回	笑龍会	宇治川幸雄
山東16回	竹馬会	蜂屋恵弘
山東17回	六七会	川越　進
山東18回	東哉会	伊藤俊夫
山東19回	鵬雲会	滝口義則
山東20回	翠巒会	千歳　毅
山東21回	四六会	後藤誠一
山東22回	主一会	大築裕信
山東23回	志也会	佐藤幸蔵
山東24回	東翼会	高橋　穣
山東25回	九重会	斎藤　篤
山東26回	互一会	野口祐三郎
山東27回	東紋会	小関一哉
山東28回	天馬会	伊藤三之
山東29回	共一会	江袋一宏
山東30回	東翔会	浅黄敬之
山東31回	五六会	児玉克也
山東32回	槌音会	鑓水功泰
山東33回	継世会	佐藤英司
山東34回	双鬢会	小林直樹
山東35回	百東会	荒木秀一
山東36回	彗琥会	赤井芳賀寿
山東37回	鴻紀会	青木秀之
山東38回	東龍会	小嶋寛之
山東39回	魁成会	鈴木清晃
山東40回	東駿会	高橋祐史
山東41回	翔洋会	吉村和武
山東42回	志成会	原田和広
山東43回	東鵬会	今野誉康
山東44回	東皐会	進藤義悦
山東45回	百珠会	黒沼　覚
山東46回	東玲会	高梨芳樹
山東47回	東凌会	阿部洋平
山東48回	天成会	峯田和宜
山東49回	東珀会	丹野一史
山東50回	雙紀会	佐竹めぐみ
山東51回	東暁会	佐竹秀文
山東52回	東愛会	武田　信
山東53回	東魂会	鈴木貴博
山東54回	東粋会	佐々木健晴
山東55回	東節会	山川晃広
山東56回	瑞雪会	武田弘幸
山東57回	和成会	小林広軌
山東58回	重友会	伊藤大地
山東59回	結昇会	武田大伸
山東60回	六黎会	阿部龍海
山東61回	勢翔会	髙橋裕也
山東62回	栄紲会	伊藤佑一郎
山東63回	六三志会	松永　和
山東64回	天晶会	桂木悠希
山東65回	勲東会	結城龍馬
山東66回	東禄会	大沼　類
山東67回	東標会	菊池柊斗
山東68回	讃燦会	池上航大
山東69回	成節会	安達良光
山東70回	令明会	金山由征
山東71回	健穏会	國井信之介
山東72回	伍凜会	山田純平

地域・職域同窓会

同窓会名	会長・支部長	事務局		
山中山東東京同窓会	金井浩一郎	〒102-0093	東京都千代田区平河町2-6-3　山形県東京事務所内	常盤潤一郎　☎03-5212-9026
山形東高仙台同窓会	菅野　一郎	〒980-8550	仙台市青葉区本町1-7-1東北電力㈱内　人財部（人事G）　課長　中村喜陽	山田　利之　☎022-225-2111
関西山中山東同窓会	杉沼　寛善	〒530-0001	大阪市北区梅田1-3-1-800　山形県大阪事務所内	小林　正啓　☎06-6341-6816
山中山東東海同窓会	酒井　和義	〒485-0041	小牧市小牧5-375-7	佐藤　義晃　☎0568-76-5235
栃木県支部	塩野　操	〒321-0141	宇都宮市さつき1-9-17	武田　康夫　☎028-653-9574
山形県庁東高会	杉澤　栄一	〒990-8570	山形市松波2-8-1　山形県庁産業労働部商工産業政策課	有川　玄基　☎023-630-3421
山形市役所東高会	伊藤　浩之	〒990-0047	山形市旅篭町2-3-25　山形市役所農林部農政課	鈴木　洋祐　☎023-641-1212
山形市歯科医師会山東会	西村　修	〒990-2313	山形市松原142-4	佐々木英夫　☎023-688-7343
酒田山東会	高橋　秀夫	〒998-0828	酒田市あきほ町659-6	岡田　恒弘　☎0234-26-7771
田川支部				
最上支部	永井　俊一	〒999-6101	最上郡最上町大字向町618-2	森　康夫　☎0233-43-2255
尾花沢支部	鈴木　欣一	〒999-4225	尾花沢市若葉町3-16-20	星川　薫　☎0237-24-1428
大石田支部	庄司喜與太	〒999-4116	北村山郡大石田町駅前通り2-25	大類　康裕　☎0237-35-2143
村山支部	服部　智彦	〒995-0034	村山市楯岡五日町7-21	吉田藤兵衛　☎0237-55-2202
東根支部	武田　信一	〒999-3785	東根市本丸西四丁目２-１	浅野目　勇　☎0237-42-2254
天童支部	相澤　一彦	〒994-0034	天童市本町2-6-13	藤山　弘　☎023-654-2380
河北山東会	鈴木　明朗	〒999-3511	西村山郡河北町谷地戊81　河北町役場　政策推進課	古澤　広喜　☎0237-73-2111
寒河江支部	大久保晴二	〒991-0031	寒河江市本町2-6-46　石川歯科医院内	石川　隆　☎0237-84-3139
朝日支部		〒990-1302	西村山郡朝日町玉ノ井甲114	阿部　憲明　☎0237-68-2526
山辺支部	伊東　信	〒990-0301	東村山郡山辺町山辺998	宗田　一彦　☎023-664-5854
上山山形東高同窓会	佐藤　紀嗣	〒999-3233	上山市三本松126-9	吉田　明　☎090-3126-3621
山形東高同窓会米沢支部	小関　清夫	〒992-0038	米沢市城南4-2-20	峯田　貴　☎0238-33-0492

三浦新七博士の生涯と業績（1）

～学問は学問のための学問であってはならぬ　何のための学問か考えよ～

三浦新七は明治10年（1877）６月22日、山形旅籠町で呉服物を扱っていた三浦新兵衛・つねの四男として生まれた。西郷隆盛の西南戦争が起きた年であり、山形県初代県令三島通庸が内務卿大久保利通に「各府県に先んじて富国強兵の基を建てる」と宣言し、県庁をはじめとして警察署、師範学校、公立病院済生館など県都造営を開始した年でもある。

山形城下町は江戸後期から幕末にかけて、奥羽第一の中継商業地（商都）であった。当時、天下の台所である上方と奥羽地方の交易は北前船などによる日本海運が主流であり、山形城下に集まった特産物の紅花や青苧、近国各地の産物は最上川を下って酒田湊から京都・大坂に上り、帰り荷の上方商品が酒田湊から山形城下に運ばれて村山地方はもとより、山形商人の手によって奥羽山脈を越えて南奥羽各地（現東北地方南域）に売り捌かれた。

昭和30年代に山形を訪れた作家石川淳は『諸国畸人伝』の中で「出羽の山形というところは、江戸の政治地図の中ではあれどもなきがごとき小藩であった。最上氏滅びわずかに城を残した後は、ぐっと格が下がって、幕府はこの地に小ぶりの大名を配置した。たとえば秋田の佐竹、庄内の酒井、米沢の上杉と数えて、山形のたれと、藩主の名を知る者はいない。山形は昔から大名文化というものの味を知らない土地柄であった。しかし、地は米ゆたかに、すこぶる紅花に富む。京紅の原料はすなわちここにあった。したがって町の隆替は地主と金貸と紅花商人との手に委ねられた」と書いた。三浦の父新兵衛の生家である三浦権四郎家もまた江戸中期に背負い商いから身を起こし紅花商人として財を築いた。幕末には全国の１割強の紅花を集出荷した長谷川家、最上家遺臣を祖に持つ佐藤家、近江商人の流れを汲む村居家と共に山形藩水野家の御用達を勤めた。三浦はドイツ留学から帰国後、養嗣子となり権四郎家を継ぐことになる。

当時、商家の子供は見習い奉公に出された。三浦もまた南山尋常小学校を出ると、取引先である東京・日本橋浜町の呉服商野本善兵衛方に預けられる。そのままであれば商いの道を歩むこととなるが、野本家の内儀との出会いが運命を変えた。お茶の水学校を出た内儀は三浦の覚えの良さに目を見張り「この子は、商人として一生を送らせるよりも、学問の道に進めた方がいいのでは」としたためた手紙を、娘時代から昵懇の間柄であった神田淡路町生まれの三浦の継母に送る。奉公先のインテリ女性の先見の明と、夫新兵衛を説得した育ての母の働き掛けで明治23年９月、三浦は山形県尋常中学校に進むこととなる。

三浦の同級生は24名。その中には大蔵大臣、日本銀行総裁となり戦前戦中の日本経済の舵を取る結城豊太郎、初代ギリシャ公使、満州国公使館顧問を歴任する外交官奥山清治、１年上級に物理学者日下部四郎太がいた。三浦は成績優秀により１年飛び級する。学問もさることながら山形中学は「明治国家の担い手となる」との気運がみなぎっていた。教師も若く、生徒と共に「山形共同會」という名の親睦倶楽部を作り、会報誌『山形共同會雑誌』を発行した。編集にあたっていた三浦は、天外子という筆名で「実業的学問」と題した論文を寄稿する。

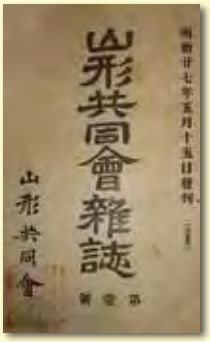
三浦新七（1877－1947）文明史家・経済人。東京商科大学（現一橋大学）学長。山形中学、東京高等商業学校卒業。ドイツに留学して比較文明史を研究し母校教授に。昭和金融恐慌に際して帰郷し両羽銀行（現山形銀行）頭取。貴族院議員。日銀参与。山東高同窓会第２代会長。遺稿集に『東西文明史論考』

―大政治家、大軍人、官吏、新聞記者、会社役員をめざし社会に出た帝国大学、専門学校の卒業生が、その目的を達せずに志望を放棄し、それを「自分の能力を認めてくれないからだ」と他人や世間のせいにして不平不満を述べるのは実に醜態の極み。その要因は学問と生産（実社会）の不均衡であるからだ。すなわち学問の進歩に生産が追いつかず、学問を生かすには官吏や学校教師になるしかない。ただし、その枠には限りがある（中略）。今日の生産社会を急に進歩させて学問と並行させることは困難である。ではいかにすべきか。唯一の方策は実業的学問を奨励することである。実業的学問とは何か。農業、商業の学問であり、土木、機械の学問であり、工芸技術の学問である。換言すれば、学問のためにする学問ではなく、応用のためにする学問である。そうすれば、福澤諭吉の云う「書を読む乞食」というようなことは生じない。実業界は実に多望、有望なり。この海のごとき多望な実業社会に立って維新革命の大偉業をなそうではないか。

結城豊太郎も「華族論」と題して「国威高まる日本をさらに富国強兵の国家とするためには、海軍の充実が第一であり、それには華族が資金を提供し民間の郵船会社を興さなければならない。瞑目沈思すれば漫々たる海上に無数の船艦がいずれも大旭日旗を翻し、黒煙を吐きて東西を奔走する光景が見える。我が大日本はますます国益富み兵強くなる」と主張した。

ときに日本は日清戦争（明治27、28年）に勝利し国運隆盛の一途にあった。

山形商工会議所　花谷　賢一（四六会）



山形共同會雜誌

山形中学時代　左端

編集後記

新型コロナの流行が始まってから丸二年が経ちました。未だ変異株による流行の波が繰り返し押し寄せていますが、効果的な感染予防対策の実施やオンライン形式での開催・交流など、我々も工夫し変化に対応してきた一年でした。ふと「change to stay」というある歌の歌詞を思い出しました。今年こそは生徒にも同窓生の皆様にも、当たり前の日常が戻りますよう心より願っております。

槙　紀子（東鵬会）　庄司　隆志（東皐会）　髙橋　明子（東玲会）